

5班 マリー・アントワネット

私たちのテーマは「マリー・アントワネット」です。

マリー・アントワネットきいて、みなさんはどんな女性を思い浮かべるでしょうか。
彼女がフランスに嫁いできた少女時代やお城の庭を散歩するイメージから、現代風のファッションに仕上げました。



1体目は、ドレスのイメージが強いマリー・アントワネットですが、そんな彼女が部屋着で自分の部屋でくつろいでいる様子を想像して制作しました。

2体目は、舞踏会で着る豪華なドレスではなく、お城の庭をお散歩するのにぴったりのドレスをイメージし制作しました。

⑤-1



◆担当アイテム：ワンピース

◆使用素材：オーガンジー

◇制作について

オーガンジー生地なので濃い色で染めるよりかは、オーガンジーの生地を活用し、そして中にチェックのトップスを着ているので薄い色とマリー・アントワネットの雰囲気から淡いピンク色で透明感を出せるようにグラデーションに染めた。

マリー・アントワネットの映画では、肌色に近い色が沢山洋服や壁に使用されていたけど、実際に作るとなると肌色に染色するのは難しいのと、肌色に染色するとなるとマリー・アントワネットにしては地味すぎるのではないかと考えたのと部屋着というのもあって、今っぽさ・現代らしさも洋服に入りたいと可愛いらしいポップな感じにしたかったのでピンクや赤といった暖色系の色を使用した。

⑤-2



◆担当アイテム：ドレススカート

◆使用素材：綿ツイル

◇制作について

柄は彼女が愛したバラを、当時流行していた「シノワズリ」という中国の写実的な柄を参考にし、デザインした。素材は、彼女が好んで着ていた綿のなかで、一番ハリのある綿ツイルを選び、クリノリンでボリュームをだした。当時の雰囲気がありつつ、舞踏会ではなく庭でお散歩するのにぴったりの彼女らしいデザインになっている。

当時の絵画をいくつか見たところ、そこに描かれた宮殿の庭は青々とした芝生が多く、庭というより大きな公園のように緑が豊かだった。それなので芝生の上で歩くときに映えるように、晴れた空のようなターコイズブルーに染めました。

⑤-3



◆担当アイテム：巾着・アームウォーマー・リボン

◆使用素材：ナイロン・ポリエステルシフォン・キュプラ

◇制作について

ドレスのスカートの部分に柄がいっぱい入っていたので、小物はシンプルに柄なしで、巾着はグラデーションで染色をして巾着を持つところはパールを使用し、リボンはドレスの色と似た感じにし、アームウォーマーは腕にボリュームが出るようにゴムをつけた。

ドレスの全体の色が、水色っぽい色だったので巾着はグラデーションのピンクで、アームウォーマーは薄いピンクに設定した。チョーカーは、水色っぽい色にした。理由は、小物が一つだけでもドレスの色と一緒にのほうがいいなと思ったので水色にしました。

⑤－４



◆担当アイテム：パジャマのショートパンツ

◆使用素材：金巾

◇制作について

マリー・アントワネットの映画を見たとき、パジャマを着ているシーンがあって、サテンのワンピースを着ていたけれど、現代風にするために上下に分けてセットアップにした。

ギンガムチェックは2023年春夏のトレンドなので、取り入れた。

ショートパンツの色はピンクよりの赤にしました。ロココを調べてみるとピンクよりの赤色がたくさん使われていたので時代の雰囲気を出すために選んだ。

⑤-5



◆担当アイテム：クッション・ナイトキャップ

◆使用素材：麻・オーガンジー(クッション)

サテン(ナイトキャップ)

◇制作について

マリー・アントワネットが使っていたクッションを調べると、周りにフリルが付いていたのでそれを参考にして製作しました。フリルの部分を2枚重ね、ロココ感やボリューム感を出しました。ナイトキャップは、近年流行りのパールを付けた。

クッションはロココな家具はピンク、水色、エメラルドグリーンに薄いグレーの色がメインなので、衣装の色と合わせるために、ピンクにした。

ナイトキャップはマリー・アントワネットが使っていたナイトキャップは白色なので、色を付けずにそのまま使いました。

⑤-6



◆担当アイテム：キャミソール

◆使用素材：金巾

◇制作について

デザインとして大きく変えたところはリボンの大きさです。イメージ画では大きかったのですが自分の中では大きすぎたら派手すぎるなと思っていました。しかし、実際の制作では大きすぎるほうがデザイン性もあり、可愛らしくなり、大きくしてよかったと思いました。

明るい赤ピンクのような女の子らしいカラーにしたかったので色にはこだわっておりました。色の調節が難しく、なかなか思う色にならなかったため目分量でしていたところも多くて試し染めから染料を多く作りそのまま本染めで使用しました。

結果思ったより薄い色になってしまいましたが可愛く染色ができました。

⑤-7



◆担当アイテム：ドレスのトップス

◆使用素材：キュプラタフタ

◇制作について

形にこだわりました。キュプラタフタは下に落ちやすい生地なので、ふわっと感を出すのが難しいのですが、どうしてもドレスらしさ欲しかったので、袖のデザインをパフスリーブにしたのがこだわりです。

マリー・アントワネットの映画で着用されていた青色のドレスがとても印象に残っていたので、参考にしました。青色でも、紫がかった濃い青ではなく、緑がかった明るい青に設定した。ビスチェも同じ色にして、統一感を出したところがポイントです。

⑤-8



◆担当アイテム：帽子

◆使用素材：綿金巾、綿ブロード、ポリエステルトロピカル、サテン

◇制作について

マリー・アントワネットが生きていた時代の貴族の女性が被っていた帽子は、レースやリボンがふんだんに使われていて、大きくて、中には形が独特なものもあります。それらをイメージしてレースや装飾品を付けた帽子を作りました。

ドレス全体の色が水色を基調としていたので、それに合うような色味の帽子に仕上げ、ギャザーに水色、ライトグレーを、装飾としてライトグレーのレースを取り付けました。また、ドレスには濃いピンク色の花が散りばめられていたので、ポイントとして濃いピンク色のお花も取り付けて、当時の華やかさも取り入れました。